

稲作情報 No.16

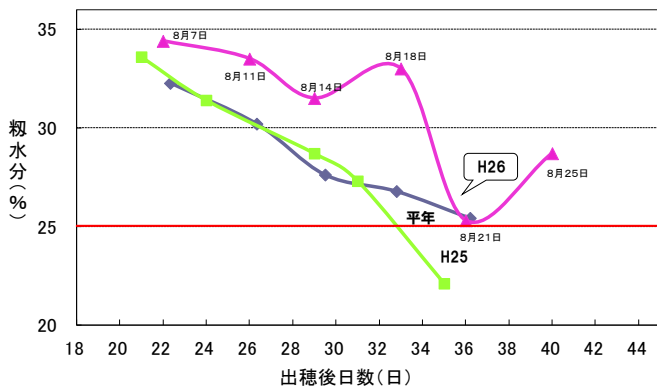
〔8月25日水稻登熟状況〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、生産振興課、JA経済連、主要農作物振興協会）

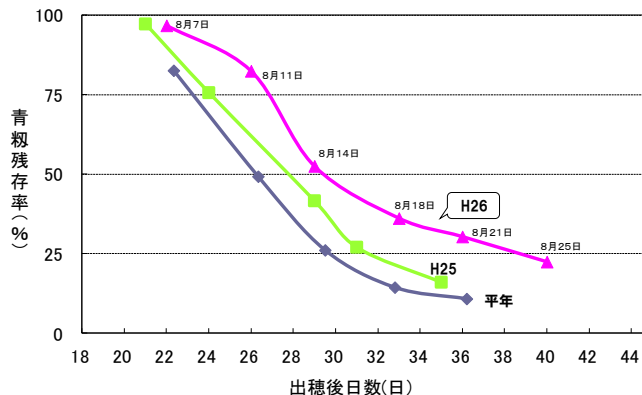
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/inasaku.html>

・コシヒカリは、地域で出穂期を把握し成熟期を大まかに予測して、計画的な収穫作業に努めましょう。
 ・田植時期が特に遅かったコシヒカリやあきさかりの籾褐変程度を確認し、茶米の発生を防止するため間断通水を収穫直前までこまめに行い、圃場の乾燥を防ぎましょう。

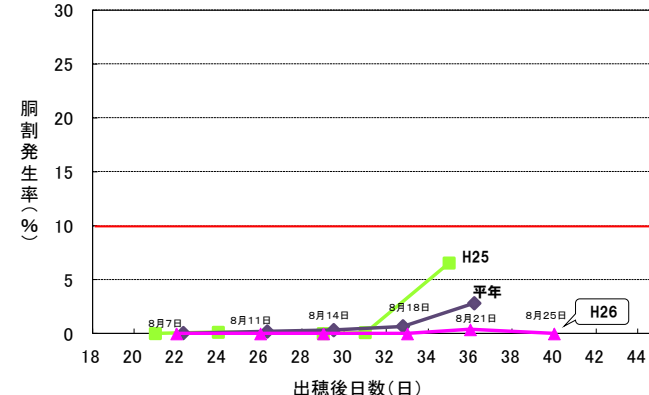
【農試におけるハナエチゼンの籾水分】



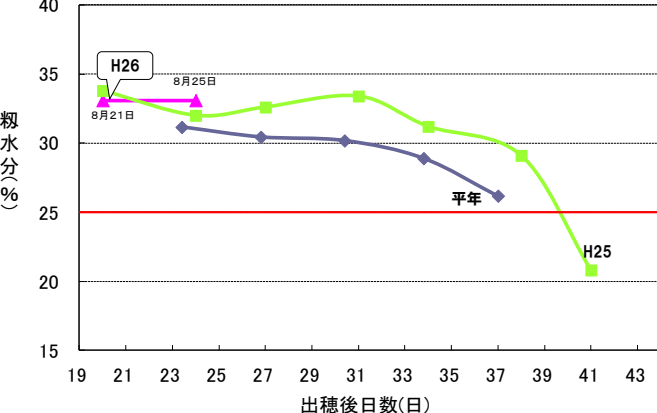
【農試におけるハナエチゼンの青籾残存率】



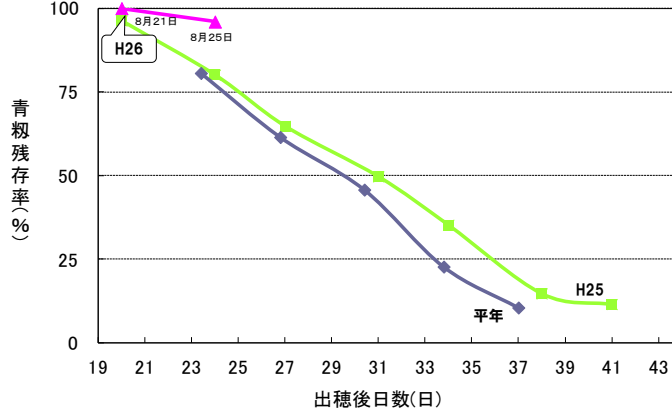
【農試におけるハナエチゼンの胴割粒率】



【農試におけるコシヒカリの籾水分】


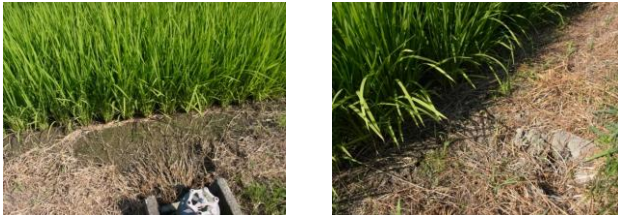


【農試におけるコシヒカリの青籾残存率】



・農試コシヒカリ(田植日5月20日)の籾水分や青籾残存率に大きな変動はない。
 ・次回の調査日は8月28日。

【今後の栽培管理】

栽培管理	管理方法																			
収穫日予想	<p>【コシヒカリ、あきさかり】</p> <table border="1" data-bbox="401 248 1667 439"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>成熟期を予測する積算温度</th> <th>田植日</th> <th>出穂期</th> <th>左の積算温度に達する予想日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コシヒカリ</td> <td>990℃</td> <td>5月20日</td> <td>8月1日</td> <td>9月8日</td> </tr> <tr> <td>あきさかり</td> <td>1070℃</td> <td>5月2日</td> <td>8月3日</td> <td>9月14日</td> </tr> </tbody> </table> <p>左の表は農試気象対策試験のコシヒカリ、あきさかり。成熟期を予測する積算温度に達する予想日(右端)は、今後の気温が平年並みで経過した場合。イクヒカリもコシヒカリと同等の990℃。</p>					品種	成熟期を予測する積算温度	田植日	出穂期	左の積算温度に達する予想日	コシヒカリ	990℃	5月20日	8月1日	9月8日	あきさかり	1070℃	5月2日	8月3日	9月14日
品種	成熟期を予測する積算温度	田植日	出穂期	左の積算温度に達する予想日																
コシヒカリ	990℃	5月20日	8月1日	9月8日																
あきさかり	1070℃	5月2日	8月3日	9月14日																
褐変粒の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・台風11号の影響により、8月10日前後に<u>出穂期</u>を迎えた圃場で褐変粒の発生が目立つ。(田植日が5月末のコシヒカリ、田植日が遅いあきさかり、その他晩生品種) ・褐変粒が多い圃場では、過乾燥では茶米の発生を助長するため、<u>間断通水</u>をこまめに行い圃場の乾燥を防ぎ、<u>収穫直前</u>までこれを実施する。 ・事前に圃場を確認し、褐変粒の発生が多い圃場や額縁部分など発生が多い部分の区分収穫・区分仕分けについて検討しておく。  <p>8/15農試圃場の日本晴</p>																			
間断通水で登熟向上	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>収穫直前</u>まで間断通水を実施し根に水分と空気を供給する。収穫直前まで圃場の土が白く乾かないようにする。圃場が軟弱な場合は徐々に土を硬くするように努める。<u>排水側の乾き具合</u>も確認して入水を判断する。 ・<u>フェーン現象</u>や<u>強風の日</u>は終日深水管理とする。これらが収まったら直ちに落水する。 ・<u>直播栽培</u>では、根群域が浅いので表面の土の乾燥に特に注意する。  <p>一つの水田で 入水側は十分湿っていても・・・排水側は相当乾いている</p>																			
適期収穫で胴割防止	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>収穫予想</u>に基づき圃場ごとの<u>籾水分調査</u>を行う。圃場条件(土質や葉の枯れ上がり、倒伏状況)を考慮した収穫順序を考える。 ・<u>葉色が薄い</u>、<u>穂が小さい</u>、<u>籾数が少ない</u>と早く籾が黄化する傾向にある。圃場の土壌条件(土質、地力、水持ち等)や葉色の<u>推移</u>、<u>下葉の枯れ上がり</u>、<u>成熟期直前の降雨</u>に注意し、胴割れ防止に努める。 ・<u>カメムシ類</u>の発生は平年、前年より多い。カメムシ防除を地域ぐるみで適期に行う。<u>斑点米の発生</u>が毎年多い地域では<u>収穫14～7日前</u>にも防除を行う。コシヒカリの防除ではハナエチゼンの収穫時期に注意が必要である。 																			

実践!

秋の田起こし

ケイ酸の補給

+

稲ワラの鋤き込み

が重要!

まずは

ポイント1

ケイ酸の補給!



ケイ酸効果のポイント

-  1 登熟が向上し、米の粒強いや品質が良くなる!
-  2 病害虫に対する抵抗性が強まる!
-  3 ケイ酸無施用で倒伏、倒伏に強くなる!
-  4 イネのストローク軽減に効果がある!

福井の田んぼはケイ酸が不足しています!



ポイント2

稲ワラの鋤き込み!

地温が高い秋に田起こしを行い、
稲ワラを鋤き込むことによって腐熟が進み、
稲作に適した有機質の主になります!

